

VIII-5

チーム bortezomib による間質性肺炎への対応

○山田修平、朝井洋晶、公平誠、上田響子、明星智洋、三嶋裕子、坂尻さくら、横山雅大、五月女隆、照井康仁、高橋俊二、伊藤良則、畠 清彦

癌研有明病院 化学療法科

【はじめに】多発性骨髄腫に対し bortezomib が使用された国内臨床試験および個人輸入製剤使用例において、bortezomib との関連性が否定できない重篤な肺障害が報告されている。当院においても、bortezomib 導入後に間質性肺炎を発症した症例を経験したので報告する。【症例】65 歳、女性、IgG- 型、ISS 病期：2 期、D&S 病期：3 期。大量 DEX 療法、放射線療法、MP 療法を施行されるも治療不応性となり、2007 年 4 月 24 日 bortezomib 療法導入。治療開始前、PS2、高 Ca 血症、腎機能障害を合併。スクリーニングの胸部 CT では間質性変化は認めず。サイクル 1 の 5 日目、SpO₂ が 80% 台へ低下。呼吸困難などの自覚症状や発熱は認めず。翌日、胸部 CT を施行したところ両側背側胸膜直下に網目状の間質性変化を認めたため、同日よりステロイドパルス療法（mPSL 1000mg、3 日間）開始。翌日 SpO₂ 改善。間質性肺炎発症後 11 日目の胸部 CT にて間質性変化の著明な改善を認めた。【考察】当科では bortezomib 導入にあたりチームを形成し安全に治療を進められるように努めた。本症例では間質性肺炎の発現を早期に発見、治療できたことで速やかな改善を認めた。事前のスクリーニングで肺疾患の既往など間質性肺炎発症のリスクの有無を確認しておくことや、導入後も呼吸器症状の有無、発熱、SpO₂ 低下などに注意をし、速やかな対応ができるように体制を整えておくことが必要である。